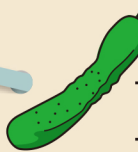


ダコニール 1000

70種類以上の作物、およそ180種類の病害に登録!



きゅうり
常温煙霧(べと病)

使用方法



なす
常温煙霧(うどんこ病)

使用方法



トマト・ミニトマト
褐色輪紋病

病害追加

農家の常備薬「ダコ」!
多くの病害を同時に
予防できる殺菌剤です。



【常温煙霧としての適用病害と使用方法】

2019年12月末日現在

作物名	適用場所	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期※	本剤の使用回数※	使用方法	TPNを含む農薬の総使用回数※
きゅうり	温室、ガラス室、ビニールハウス等 密閉できる場所	べと病	33	10ℓ/10a	前日	8回	常温煙霧	10回(土壌灌注:2回、 散布及び常温煙霧及び くん煙及びエアゾル剤の噴射: 合計8回)
なす		うどんこ病				4回		4回

【土壌灌注剤あるいは種子消毒剤としての適用病害と使用方法】

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数※	使用方法	TPNを含む農薬の総使用回数※	
稲(箱育苗)	苗立枯病 (リゾブス菌)	500～1000	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り500ml	は種時から緑化期 但し、は種14日後まで	2回	土壌灌注	2回	
		1000～2000	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り1ℓ					
きゅうり	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	1000	3ℓ/m ²	は種時又は活着後 但し、定植14日後まで			10回(土壌灌注:2回、散布及び常温煙霧 及びくん煙及びエアゾル剤の噴射:合計8回)	
トマト					6回(土壌灌注:2回、散布及び くん煙及びエアゾル剤の噴射:合計4回)			
レタス	ビッグベイン病		1.5～3ℓ/m ²	収穫42日前まで			5回(土壌灌注:2回、散布:3回)	
ブロッコリー	根こぶ病		3ℓ/m ²	定植時			3回(土壌灌注:1回、散布:2回)	
みずな	立枯病			は種時			1回	
ねぎ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500	0.5ℓ/m ²	出芽揃い後 (出芽3日後から10日後まで)	1回			4回(土壌灌注:1回、散布:3回)
			セル成型育苗トレイ1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌約5ℓ) 当り0.5ℓ					
わけぎ	0.5ℓ/m ²						3回(土壌灌注:1回、散布:2回)	
にんじん	黒葉枯病	12	乾燥種子1kg当り60ml	は種前		吹き付け処理 (種子消毒機使用)	5回(種子への吹き付け処理:1回)	

※印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫(摘採)前の日数と、本剤及びその有効成分を含む農薬の総使用回数を示しています。

病害の 同時防除に。

農林水産省登録 第21759号

ダコニール 1000

「ダコニール」、「ダコ」、「DACO」は株式会社エス ディー・エス バイオテックの登録商標です。



有効成分: テトラクロロイソフタロニトリル (TPN) …40.0%w/w 性状: 類白色水和性粘稠懸濁液

【散布剤としての適用病害と使用方法】

※印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫(摘採)前の日数と、本剤及びその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示しています。表中「―」は、使用時期の制限がないことを示しています。

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用 量	使用時期 [※]	本剤の [※] 使用回数	TPNを含む 農薬の総使用回数 [※]	作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用 量	使用時期 [※]	本剤の [※] 使用回数	TPNを含む 農薬の総使用回数 [※]			
きゅうり	べと病、炭疽病、うどんこ病、 褐斑病、灰色かび病、黒星病	1000	1000	前日	8回	10回(土壌灌注:2回、 散布及び常温煙霧及びくん煙 及びエアソル剤の噴射:合計8回)	もりあざみ	ステムフィリウム葉枯症	1000	100～ 300 ℓ/10a	30日	3回	3回			
にがうり	べと病、炭疽病、うどんこ病、 斑点病、つる枯病				4回	4回	みょうが(花穂)	葉枯病、紋枯病			14日	4回	4回			
ズッキーニ	うどんこ病				3回	3回	みょうが(茎葉)				★4	4回	4回			
ごぼう							出蕾前 但し、21日	2回			3回(土壌灌注:1回、 散布:2回)					
ゆうがお	べと病、炭疽病、うどんこ病				5回	5回	出蕾前 但し、14日	3回			3回					
うり類(漬物用、 但し、ゆうがおを除く)	べと病、炭疽病、うどんこ病、 つる枯病	700	700	前日	4回	4回	茶	網もち病、褐色円星病 炭疽病、もち病、輪斑病、 新梢枯死症(輪斑病菌による)	1000	200～ 400 ℓ/10a	10日	1回	1回			
かぼちゃ	べと病、うどんこ病、白班病				7日	3回	3回	セルリー			斑点病、萎縮炭疽病	21日	2回	2回		
すいか	炭疽病				3日	5回	5回	5回			5回	にんじん	黒葉枯病	7日	5回	5回(種子への 吹き付け処理:1回)
メロン	うどんこ病							700			700	みつば	べと病	根株養成期 但し、75日	3回	3回
	つる枯病											しゃくやく(薬用)	うどんこ病	45日	15回 (1年間に3回)	15回 (1年間に3回)
トマト	疫病、葉かび病、輪紋病、 炭疽病、灰色かび病、 すすかび病、うどんこ病、 褐色輪紋病	100～ 300 ℓ/10a	100～ 300 ℓ/10a	前日	4回	6回(土壌灌注:2回、散布 及びくん煙及びエアソル剤 の噴射:合計4回)	みしまさいこ	炭疽病	1000	100～ 300 ℓ/10a	30日	3回	3回			
ミニトマト	斑点病				2回	2回	ろっかぜい	褐斑病			14日	4回	4回			
なす	黒枯病、灰色かび病、 すすかび病、うどんこ病				4回	4回	食用ぎく	葉枯病			30日	6回	6回			
オクラ	葉すす病				5回	5回	食用ゆり	葉枯病			14日	6回	6回			
ピーマン	斑点病、うどんこ病、 黒枯病、炭疽病				3回	3回	ふき	灰色かび病			21日	2回	2回			
はくさい	べと病、白さび病、 白班病、黒斑病	1000	1000	前日	7日	3回(は種又は定植前の土壌湿和:1回、散布:2回)	あしたば	黒枯病	1000	150 ℓ/10a (低元散布)	30日	3回	3回			
キャベツ	べと病、根朽病				14日	2回	てんさい	褐斑病			根株養成期 但し、200日	3回	4回(散布:3回、 根株瞬間浸漬:1回)			
ひろしまな	白班病				28日	2回	うど	黒斑病								
なばな類 ^{★2} (なばなを除く)	べと病、白さび病、 白班病、黒斑病				60日	3回	3回	しそ			斑点病(株枯症)	前日	4回	4回		
なばな					出蕾前 但し、21日	3回	3回	りんご			斑点落葉病、モモア病、黒星病	45日	3回	3回		
だいこん	ワッカ症、白さび病、 白班病、炭疽病	1000	1000	前日	45日	3回(土壌灌注:1回、散布:3回)	なし	黒斑病、黒星病	1000	200～ 700 ℓ/10a	60日	7回	7回			
レタス	灰色かび病				14日	5回(土壌灌注:2回、 散布:3回)	もも	炭疽病、黒星病			前日	6回	6回			
リーフレタス	べと病、すす枯病				21日	2回	2回	ネクタリン			灰星病、黒星病	2回	2回	2回		
たまねぎ	べと病、灰色かび病、白色疫病				7日	6回	6回	いちじく			疫病、黒葉枯病、黒かび病、さび病	60日	7回	7回		
ねぎ	黒斑病、べと病、 小園核腐敗病、葉枯病、 さび病				14日	3回	3回	キウイフルーツ			果実軟腐病	60日	7回	7回		
わけぎ		1000	1000	前日	7日	6回	すず斑病	炭疽病	1000	100～ 300 ℓ/10a	前日	5回	5回			
にんにく ^{★3}	葉枯病、黄斑病、 白班葉枯病、さび病				14日	3回	3回	パパイア			炭疽病	30日	4回	4回		
らっきょう	灰色かび病				7日	6回	6回	マルメロ			ごま色斑点病	45日	3回	3回		
アスパラガス	茎枯病、斑点病、褐斑病、疫病				14日	4回	4回	かりん			黒点病、ごま色斑点病、 白かび斑点病	14日	3回	3回		
しょうが	紋枯病、白星病				21日	2回	2回	パッションフルーツ			円斑病、疫病	—	6回	6回		
ばれいしょ	疫病	1000	1000	前日	7日	5回	しきみ	炭疽病	1000	25～150 ℓ/10a	2回	2回	2回			
やまのいも	炭疽病、葉疫病、つる枯病				30日	6回	6回	たばこ			うどんこ病	700～ 1000	200～ 700 ℓ/10a	2回	2回	
やまのいも(むかこ)					45日	6回	6回	花き類・観葉植物 (ばら、きく、 チュウリップ、ゆり、 りんどうを除く)			うどんこ病、斑点病	700～ 1000	25～150 ℓ/10a	2回	2回	
								ばら			黒星病、うどんこ病、斑点病	1000	100～ 300 ℓ/10a	—	6回	6回
								きく			黒斑病、褐斑病、白さび病、 うどんこ病、斑点病	1000	100～ 300 ℓ/10a	—	6回	6回
		1000	1000	前日	14日	4回	チュウリップ	褐色斑点病	1000	200～ 700 ℓ/10a	7日	5回	5回			
					7日	5回	5回	ゆり			葉枯病、斑点病	30日	4回	4回		
					30日	6回	6回	りんどう			葉枯病、褐斑病	45日	3回	3回		
					45日	6回	6回	つつし類			褐斑病	14日	3回	3回		
								西洋芝 (ペンタグラス、 パーミューダグラス)			ヘルミントスポリウム葉枯病、 葉腐病(ブラウンパッチ)	500～ 750	1ℓ/m ²	発病初期	8回	8回

- ★1 うり類(漬物用)に含まれる作物:赤毛ウリ、食用ひょうたん、食用へちま、しるうり、漬物用すいか、漬物用まくわうり、漬物用メロン、とうがん、はやとうり、ゆがお ●漬物用以外のまくわうりには使用できません。
★2 なばな類に含まれる作物:あさまこな、あすこ、アレタ、おおさきな、太田かぶ、オータムボエム、大月菜、大野菜、かいらん、かきな、勝山水菜、くきたちな、ケルッコラ(なばなの栽培)、こうさな(なばなの栽培)、さいしん、三景雪菜、四川児菜、たべたい菜、チマテラバ、チンゲンサイ(なばなの栽培)、チンゲンルッコラ(なばなの栽培)、摘葉花、つぼみな、なばな、のらぼうな、博多蕾菜、はくさい(なばなの栽培)、はけな(なばなの栽培)、はなこりー、みずかたな、めいけな

- ★3 葉にんにく、にんにく(花茎)には使用できません。
★4 みょうが(茎葉)への使用時期:みょうが(花穂)の収穫14日前まで 但し、花穂を収穫しない場合は開花期終了まで。

△効果・薬害等の注意

- 使用前に容器をよく振ってください(沈殿)。
- 石灰硫黄合剤とは混用しないでください(分解)。
- ストレプトマイシン剤及びホセチル剤と混用する場合、必ず本剤を先に所定の濃度に希釈してからそれぞれの剤を加えてください(凝集沈殿)。
- 稲(稲育苗)の緑化期に使用する場合、発病後の処理では効果が劣ることがあるので注意してください。育苗箱から希釈液が漏れないよう注意してください。
- りんごに使用する場合、ゴールドの後代品種(つがる、世界一、ジョナゴールド等)には使用しないでください(薬害)。落花後20日間は散布しないでください(薬害)。
- なしに使用する場合、二十世紀以外の品種には使用しないでください(薬害)。また、二十世紀でも7月以降に使用しないでください(薬害)。
- 有袋栽培のものに使用する場合、除袋直後の初期はさけてください(薬害)。
- いちじくに使用する場合、果実肥大期の初期あるいは夏期高温時の散布はさけてください(薬害)。
- ねぎ及びわけぎに土壌灌注する場合は、種時から出芽直後の処理はさけてください(生育抑制)。
- レタスに使用する場合、高温期の灌注はさけてください(生育遅延)。
- そに使用する場合、葉にかからないよう株元に散布してください(汚れ)。
- 常溫煙霧として使用する場合、次の事項に注意してください。
 - ①専用の常溫煙霧機により所定の方法で煙霧してください。特に常溫煙霧装置の選定及び使用にあたっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
 - ②煙霧が直接作物体に当たると汚れが生じるおそれがあるので、施設上部に噴頭部を設置するなど煙霧が作物体に直接当たらないように注意してください。
 - ③作業は出来るだけ夕方に行い、終了後は6時間以上密閉してください。

- 花き類に使用する場合、花卉の着色期以降や収穫間際の散布はさけてください(薬害・汚れ)。
- 芝に使用する場合、夏期高温時の散布、特に暖地では葉に黄変または褐変の薬害を生ずることがあるので注意してください。
- 使用量・使用時期・使用方法を守ってください。特に初めて使用する場合は、使用者の責任において、事前に薬害の有無を十分に確認してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分に確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

△安全使用上の注意

- 誤飲などに注意してください。
- 眼に入らないように注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください(刺激性)。
- 皮膚に付着しないように注意してください。皮膚に付着した場合は直ちに石けんでよく洗い落とす(刺激性)。
- 夏期高温時は使用しないでください。
- 使用の際は保護クリームをつけ、農業用マスク、不浸透性手袋、不浸透性除衣等を着用してください。作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをして衣服を換えてください。作業時の衣服等は他と分けて洗濯してください。
- かぶれやすい人は作業に従事しないでください。施用した作物等に触れないでください。
- 桑葉にかからないように注意してください(蚕毒)。

- 街路、公園等で使用する場合、使用区域に縄囲いや立て札をたて、使用中及び使用後(最小限その当日)に関係者以外は立ち入らせないでください。小児、人畜等に留意してください。
- 常溫煙霧中はハウス内へ入らないでください。また常溫煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後入室してください。

- 魚毒性等…魚類に強い影響を及ぼすおそれがありますので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意してください。養殖池周辺での使用はさけてください。使用した苗は養魚田に移植しないでください。移植後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意してください。(魚類)甲殻類に影響があります。河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意してください(甲殻類)。使用残りの薬液が生じないように調整し、使いきってください。散布器具・容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 漏出時は、保護具を着用し、布・砂等に吸収させ回収してください。
- 移送取扱いは、ていねいに行ってください。
- 保管…密栓し、直射日光を避け、食品と区別して冷涼な場所に保管してください。

- ラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 小児の手の届く所には置かないでください。
- 空容器は園場などに放置せず3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。

この印刷物の記載内容は2019年12月末日現在のものです。

2019年12月作成(東宣)

01R12L19D120:T

ダコニール 普及会

事務局



株式会社 エス・ディー・エス バイオテック